

環境影響評価審査会トヨタ自動車田原風力発電所部会委員からの指摘事項及び事業者の見解

番号	指 摘 事 項	事 業 者 の 見 解
1	<p>レーダーによる調査も行うことから飛翔高度を正確に記録することができるとしているが、レーダーによる調査は水鳥の渡りを対象としたものであり、飛翔高度の確認が必要なチュウヒ等については、それが行われるかどうか明確になっていない。</p>	<p>水鳥については、目視による確認が困難な夜間に飛翔することが知られているため、レーダーによる調査を行うこととしています。</p> <p>チュウヒ等の希少猛禽類については、日中に飛翔するためレーダーによる調査は行いませんが、今後、調査中に確認された個体から数例をピックアップしたうえで、レーザー測距計を用いて飛翔高度の記録の精度を確認すること等を検討します。</p>
2	<p>目視調査とあわせてレーザー等による調査を行うことなどにより、飛翔高度が正確に調査できているのか確認すべき。</p>	
3	<p>例えば発電の条件が良くない日や、あるいは、鳥の渡りが予想できる日などにおいては、風力発電設備を稼働させないなど、バードストライクを回避するための検討をすすめられたい。</p>	<p>今後準備書までに、現地調査により得られた飛翔経路及び高度から、鳥類の衝突リスクに係る予測及び評価を行います。その結果、影響が大きいと判断された場合には、専門家等の助言を踏まえて適切な環境保全措置を検討します。</p>
4	<p>事業実施区域周辺の既設の風力発電所におけるバードストライクについて、実態調査も必要ではないか。</p>	<p>事業実施区域周辺の既設の風力発電所はすべて他の事業者のものであるので、現地調査の実施も含めて各事業者の協力が得られるよう努めてまいります。</p>

番号	指摘事項	事業者の見解
5	<p>風力発電所の規模を、発電による CO₂ 排出量低減効果が、田原工場の排出量の約 1 割に相当する規模に定めた理由を説明されたい。</p> <p>出力が下がれば、可能な限り南側のラインを避けることができるのではないか。</p> <p>また、2050 年までに CO₂ 排出量を 0 にする目標達成のための具体的な方法等はどう考えているのか。</p>	<p>・当社では、「トヨタ環境チャレンジ 2050」（2015 年 10 月）の 6 つのチャレンジの一つである「工場 CO₂ ゼロチャレンジ」において、2050 年にグローバルでの工場からの CO₂ 排出ゼロを目指すこととしており、2020 年頃を目指して計画をしている本事業（風力発電所）により期待される再生可能エネルギー発電量及び CO₂ 排出量低減効果は、重要な位置づけとなっています。</p> <p>・当社国内工場の中で、田原工場は風力発電に最も適した立地にあたりますが、本事業は、自社敷地内での設置と発電した電力の自社内での利用を目的としていること、また、田原工場の敷地内において風力発電設備を設置できるスペースは限られていることなど様々な制約条件がある中で、適切な事業規模を検討した結果が、本事業の発電出力になっております。</p> <p>・また、「工場 CO₂ ゼロチャレンジ」においては、</p> <p>① 低 CO₂ 生産技術の開発・導入と日常のカイゼン」による徹底した CO₂ 削減（工場のシンプル・スリム化、エネルギーの利用率向上、エネルギーを使わずに加工や搬送を行う、からくり仕掛けの導入などの新技術を開発し、世界の各工場に導入。）</p> <p>② さらに、「再生可能エネルギーと水素エネルギーの活用」により 2050 年に CO₂ 排出ゼロを目指す。（環境性・地域性・経済性を踏まえて、再生可能エネルギーと水素の活用を促進。）</p> <p>等により、2050 年にグローバルでの工場からの CO₂ 排出ゼロを目指すこととしています。</p> <p>・具体的な風車配置は準備書段階で決定していくこととなりますが、方法書に記載した調査、予測及び評価の結果や今後の知事意見などを踏まえ、より環境影響に配慮した事業計画となるように機種や基数、配置等を決定してまいります。</p>